

## 調査研究に関する中間報告書

調 査 研 究 課 題	県内河川の底生動物による水質特性についての研究
調 査 研 究 の 目 的	<p>県内河川について、底生動物を用いた生物学的調査と理化学的水質調査を行い、河川ごとの水質を総合的に評価する。得られた知見や情報は環境管理課および保健所等関係機関に提供し、各地域で行う環境学習に活用していくことを目的とする。</p>
調査研究の進捗状況 (これまでの成果や問題点等を含む。)	<p>平成 30 年度は県南河川での調査の計画であったが、平成 30 年 4 月に硫黄山が噴火し、その後、長江川の重金属等が水質基準を超過し、底生動物への影響が懸念されたため、長江川中流の長江橋および、川内川の長江川合流前の坂下橋、飯野橋、合流後の真幸堰の合計 4 地点で 12 月に調査を行った。</p> <p>理化学検査については水温、pH、電気伝導度、溶存酸素、生物学的酸素要求量、浮遊物質量、硝酸性窒素、亜硝酸性窒素、全窒素、全りん、全亜鉛、ノニルフェノールの 12 項目について実施した。川内川については平成 28 年 11 月に同 3 地点で調査を実施しているためデータを比較したところ、生物学的酸素要求量や全窒素等については大きな違いは見られなかった。長江橋については pH が 4.2 と環境基準 (pH6.5 以上 8.5 以下) から大きく外れていた。一方、亜鉛は 0.017mg/L と同日調査した下流の川内川真幸堰の 5 倍以上であったが、水生生物の生息状況の適応性に関する環境基準 (0.03mg/L 以下) を達成していた。</p> <p>生物調査については現在検索・同定作業中である。同定が終わった長江橋および飯野橋を比較したところ、長江橋は計 9 匹と飯野橋の 100 分の 1 以下の数であった。</p>
備 考	